

■令和3年6月定例記者会見内容

- 日 時 令和3年6月1日（木）午前11時～11時50分
- 場 所 市役所本庁舎第1委員会室
- 出席者 ・市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、健康福祉部長、
農林水産部長、教育次長
企画調整課長、健康課長、市長公室長
・酒田記者クラブ11社（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、
山形新聞、荘内日報、NHK、YBC、YTS、TUY、SAY）

■市長発表事項

【飛島地域における新型コロナウイルスワクチン接種について】

市長／私からは、新型コロナウイルスワクチン接種の関係で2つほど記者会見をさせて頂きたいと思っております。まず、最初に「飛島地域における新型コロナウイルスワクチン接種について」ということをございますけれども、ご存じの通り、山形県唯一の離島、飛島におけますワクチンの接種でございますが、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の日本海総合病院からの協力によりまして、ワクチン接種を希望する全島民に対するワクチン接種を実施することといたしました。

飛島は、常勤の医師がいないことなどから、新型コロナウイルス感染症の発生等に伴う医療提供体制等が懸念されております。従いまして、夏の観光シーズン前に64歳以下の方へも同時に接種することによりまして、島民の安心安全な生活に寄与しようということで、この程、具体的な日程等を決めたところでございます。

接種日は、1回目の接種が6月11日（金）です。荒天等天気が悪く定期船が欠航の場合には翌週の18日（金）に順延をいたします。

2回目は、その3週間後ということで、7月2日（金）を予定しています。接種時間は船の関係もありますが、午後2時から午後5時までの3時間。接種会場は、中村地区にございますとびしま総合センターの集会室において接種をいたします。

接種を希望されている方でありまして、事前に実施した意向調査によりまして、島民が127人、それから島の外に住所を有する方で、例えば漁協の飛島支所でありまして、定期航路の飛島連絡所ですとか、あるいは火力発電の職員の皆さん等が対象になりますけれども、その方々で接種を希望されている方は13人。全部で140人が接種の希望をされております。飛島の人口が174人、それから島民で接種を希望している方が127人ですから、実際は73.0%の接種率ということになるかと思っております。当然のことながら、島外で接種をされるという方もおりますので、そういった方は入っていないわけですが、現状では73.0%ということになっております。これは、4月30日現在の人口でのデータであります。

接種の人員体制ですけれども、記載の通り医療従事者と会場運営職員合わせて18人を予定しておりまして、内訳は、病院機構として、お医者さんが2人、看護師が3人、薬剤師が1人、事務職員が4人の計10人。それから、酒田市側からは、保健師2人、管

理栄養士 1 人、事務 5 人計 8 人という事で、18 人体制で接種に出向くことにしております。

なお、ワクチンの接種に伴って、重篤な副反応等が生じた場合の救急対応等が、飛島においてはワクチン接種の際の課題となっておりますけれども、緊急発生時のドクターヘリ等によります搬送など関係機関と連携をして、万全の体制で接種に向かいたいところのように考えているところでございます。飛島における新型コロナウイルスワクチンの接種については以上でございます。

【65 歳以上の高齢者等へのワクチン接種状況等について】

市長／それから、2 つ目として「65 歳以上の高齢者等へのワクチン接種の状況等について」ということでございますけれども、お手元に資料を差し上げているかと思えます。これまで、集団接種、それから高齢者施設等の先行接種、そして個別接種、この 3 つの体制で接種を進めてきております。

お手元の資料をご覧になっていただくと分かりますように、65 歳以上への高齢者等へのワクチン接種について、集団接種の状況は 5 月 30 日現在で、高齢者 4,981 人が接種済みでございます。全て 1 回目ということになりますけれども。

それから、高齢者施設については、ここは 2 回接種している方がいらっしゃるしまして、1 回目としては 840 人接種をしているということになっております。

それから、個別医院で接種した方ですけども、これまでの間は 6,625 人接種をしているところでございます。65 歳以上の高齢者、一番下の所に、37,800 人というふうに書いてありますけれども、この対象者のうち 1 回目接種を終えた高齢者につきましては、この①②③の合計これが 12,446 人ということになりますので、接種率では 32.9%の接種率ということでございます。

今朝の報道等によりますと、全国の平均が 13.1%、それから山形県の平均が 18.1%ということでございますので、本市の状況は、まずは予約が取りにくいとか、電話が繋がりにくいという、そういう状況はありましたけれども、まずは順調に接種が進んでいるのかなどこのような理解をしているところでございます。

ただ、ご存じの通り 5 月 19 日に 2 回目の追加枠の予約を行いましたけれども、これも 20 日の段階ですぐに満杯になってしまって、予約申込が一時停止の状態になっております。それを受けまして、今回の 6 月 1 日号の広報等でもお知らせをしておりますけれども、3 回目の集団接種の追加枠ですね、これにつきましては、6,500 人程の枠を設けました。これは 6 月 8 日に予約を再開する予定でおります。このことは、ホームページやラインですとか広報で皆さんにお知らせをしているところでございますが、この 6,500 人の枠を入れ込みますと、実際のところ 37,300 人ほどが接種できると、これは個別接種も含めてということになりますけれども、65 歳以上の方についての接種率、これは 98.7%、ほぼ 100%に近い方々に接種できるという体制を組ませていただきました。

これも希望制ですから、打ちたくない、打たないという方もいらっしゃいますので、

その辺もありますが、その対象（65歳以上高齢者数）は37,800人いらっしゃるわけですが、その方々が全部、すべて打ちたいとなった場合には、37,300の枠を確保することになりますので、98.7%の皆さんに接種することが出来るようになるということになります。

6月8日に予約を再開しますが、最初のところはかなり予約が込み合う、電話が繋がらないとかですね、そういった状況も想定できますけれども、ただいま申し上げました通り、希望される皆さんが、接種できる体制をしっかりと組みましたので、そこはあまり慌てずにですね、少し混み合っても、またちょっと時間をずらしてもらって取ってもらえれば、これはしっかりと接種できますよということで、皆さんの方にもお知らせをしていきたいなと、このように思っております。

広報等のチラシを見ていただくと分かるのですが、これでいきますと、今回の追加接種の予約ですね、8月に接種日程をはめ込んでおります。政府の要請では、7月中に終えて欲しいという話もございました。当初の段階では、私共も7月中に全部終えるという想定はしておりましたけれども、かなりの接種希望者が増えたということで、やはり、医師あるいは接種をするにあたっての看護師等の医療スタッフの確保、会場の確保等々を考えますとですね、どうしても現実的には7月中に、全部65歳以上の希望する方に接種をし終えるというのは、ちょっと難しいかなと思っておりますが、何とか8月中には、間違いなく皆さんに打てるような体制をしっかりと組んでいきたいと思っております。

64歳以下の接種希望者に対しては、7月になってから接種券の配布を行いますけれども、その方々に対しても、8月中に接種を開始しますので、実際、8月中の接種日というのは65歳以上もかなりおりますけれども、64歳以下もかなりはまり込んでくるだろうということで、ちょっと入り混じった形で接種がなされるという体制で臨んでいきたいなというふうに考えておるところでございます。

ワクチンの接種等に関する発表事項については、以上でございます。よろしくお願いいたします。

記者／飛島の件でお聞きしたいのですが、11日ということですが、我々も取材に伺うとなると定期船の関係で日帰りするということになるのか。どういう動きになるのか教えていただきたい。

健康課長／従事スタッフにつきましては、特に医師の場合、その後の副反応を見ていただくという意味で、泊っていただくような想定でございまして、そのため病院の医師の都合に基づいて、一泊二日というようなスケジュールを組ませていただいております。

現時点で取材の方の泊りのところまで、ちょっと実は考えておらなかったのが正直なところですが、取材そのものはしていただいて構わないと思っております。

記者／我々はその現場を取材するなら、我々も一泊二日をさせていただかないと無理ということですね。

市長／はい。よろしくお願いいたします。

記者／わかりました。すみません、あと全体の規模の話なのですが、今4月末現在で聞

いているのは、112世帯174人ということなんですけれども、これ最新の数字というのは変わってるのでしょうか。

市長／5月31日ということになるんでしょうかね、後で、お知らせさせていただきます。そんなに変わってないと思いますけど、174かというのと、ひょっとしたら違っているかもしれないですね。

記者／わかりました。ありがとうございます。

記者／今回、夏の観光シーズンに先立って、飛島の件ですが、集団接種をされるということだったんですけど、集団接種を終えることで、どういう飛島を目指していくというお考え、どういう体制を目指していくというか、どういう考えを持って、今回集団接種を決断されたのか、改めて説明していただいてよろしいでしょうか。

市長／お手元の資料にもありますけども、厚生労働省からもそういった事務連絡が来ているということで、対象者数が少ないですからワクチンを無駄にもしたくないですし、それから何回も行ったり来たりできるような環境ではないので、一回で島民の皆さんの希望者に全部接種をすることによって、効率化が図られます。そういう体制で、我々は飛島については向かおうということは考えておりましたが、島民の皆さんにとって、やはり感染した方が島にやって来て、自分たちが感染するというのが一番怖いですよ。お医者さんがいないということからすると、なおの事怖い訳です。そういう意味では観光シーズンに人が一番集まるのが、6、7、8、9月この位の訳ですけども、ここの時に安心して島民の皆さんが、それぞれ生活できるような、そういう環境を、そこはまた特別に我々、環境を作ってあげたいという思いがありましたので、今回64歳以下の方も含めて接種をすることによって、これは事前に準備をこれまでもしておりましたので、あくまでも島民の皆様の安心安全な生活をしっかり早めに確保・確率してあげるといふそういう思いで、今回接種をさせていただきました。

逆に言うと、状況次第ですけども、どんどん飛島に来てくださいという状況までには、今の全国の状況を見ると、そこまでは言い切れませんが、まずは島民の皆さんが安心してもらえる環境を作りたいと、そういう思いで、今後の観光シーズンに向けて、対応させていただいたということでございます。

記者／2つ目の65歳以上の高齢者等へのワクチン接種の状況等についてなのですが、3番目の個別接種の医療機関、医療機関数それぞれ書いているんですけど、全部だと何機関で行われたということでしょうか。

市長／広報では45で最初お知らせしたんでしょうかね、実際ここに、医療機関数が45になっていないものですから、ここのところは何か事情があったのかな。

健康課長／広報に載せたのは、医療機関が公表しても良いと言う所を45ということまで載せさせていただいて、実際は49の医療機関から表明いただいております。

ただ、医療機関によって接種できる人数、いわゆるかかりつけの患者さんの数だったり、接種する時期に違いがありますので、ここはあくまでも、(ワクチン) 配送を希望

している医療機関数ということで、表示させていただいたものですので、全体の医療機関の数とは違うと言いますか、その日に配送を希望したという意味で捉えていただければと思います。

市長／49 医療機関は、一応接種はしてくれるんですけど、この期間内ではここしかやっていないということですよ、この期間に接種した医療機関が 31 だったり、35 だったりということ。

打てる、打ってもいいよと言っている医療機関は、実際には 49 ある。広報には 45 だけ明示させていただきましたが。

記者／6,625 人が接種した医療機関、これ何機関あるかっていうのは分かるんですか。

健康課長／すみません、ちょっとそこは押さえてこなかった。補足になりますが、資料中は人数換算ということで、実際個別接種した正式な人数は押さえられないので、あくまでもワクチンの配送をした数のバイアル（注射剤を入れるための容器）を換算した時に、この位、接種したのではないかという推定値ということで捉えていただければと思います。

記者／それで推定という表現をしているのか。

健康課長／はい、おっしゃる通りです。

記者／飛島の方なんですけども、細かいことで恐縮なのですが、島外に住所を有する方が 13 人ということなんですけど、島外に住所を有する方 13 人が全員であり、その全員の方が希望されて、13 人ということになるのか。

健康課長／意向調査では全員でした。

記者／5 月 19 日現在の意向調査結果ということなんですけど、この後さらに受けたいという方がいらっしゃった時とか、対応可能なものなのですか。

健康課長／6 月 1 日に、最終的な予約時間を飛島の総合センターを通じてお知らせすることにしております。その際に、まずは人数の確定をさせていただいて、変更があれば、体調不良も含めまして、8 日までに申し出させていただきたいということで伝えておりますので、仮にその時点で接種を希望するということに変わっても、それなりの対応は可能と考えております。

記者／飛島の接種の件で、当日の体制の所で、お医者さんについては宿泊してもらおうという話でしたけれども、他の看護師さんですとか、他のスタッフの方というのは、当日の船で帰るような想定でよろしいでしょうか。

健康課長／先程もございましたが、1 便しか当日は金曜日、出航してないので、帰ることが出来ないんで、全員泊りになります。

記者／定期船の時間をずらしたりということは、今のところ考えてはいないということでしょうか。

健康課長／はい。

記者／ワクチン接種の状況などについて、これから 64 歳以下の接種も視野に入ってくるということですが、たくさんの方が受けられる訳ですけども、他の自治体ですと、医師以外の方、歯科医師ですとか注射をして体制をより強化していくという所もあるようですが、酒田市ではどうなるのでしょうか。

市長／現時点では、その手配はまだしておりません。今のところ、会場の規模だとか、お医者さんの数、事前に予診したり副反応の状況を見たりする、まずそちらがあつてですね、それに対応できる打ち手、看護師さんのケースがほとんどですけど、そのところで、今のところはですね、医師会の皆さんの協力をいただきながら、十分なのではないかと考えております。

64 歳以下も含めて国では 16 歳未満の方もという話もちょっと出ているようですよね。状況によっては、お願いをしなければならない、協力いただくという場面も、絶対に無いとは考えておりませんが、今のところは、まずはそこまでは枠を拡げることなく対応していきたいということで向かっております。

記者／高齢者施設の先行接種ですが、1 回目は 4 月中だと思ったのですが、2 回目はいつごろから始まったのでしょうか。

健康課長／4 月の 19 日に 1 回目が始まりまして、2 回目が始まったのが、5 月の 6 日からです。

■フリー質問

【洋上風力発電について】

記者／酒田沖であったり、遊佐沖の方に風力発電を検討されているということですが、その辺りについて酒田市としてはどのような考えをお持ちなのか伺いたい。

市長／遊佐沖については、一定程度、有望な区域という位置付けになるような形で、今頑張っ国に働きかけをさせていただいているわけですね。

酒田の場合は、山形県の方で、今年度検討部会を立ち上げますよという、そういう話にはなっていますので、進み具合では、ちょっと段階的にはレベルの違いがある訳です。しかしながら、洋上風力というものがですね、国のエネルギー政策上は非常に重要な位置付けになっているということを踏まえすと、是非この日本海エリアというものは風況の良い所ですから、洋上風力というのをどんどん進めていただいて、日本のエネルギー政策に寄与していただければなとそんな思いでおります。

従いまして、洋上風力自体は山形県が事業として進める事業となっておりますので、酒田市としてはですね、県の方に協力をしながら、是非この地域に洋上風力の事業が進むように、力を入れていただきたいということで、要請を、要望をしているという状況であります。

我々が主体になり得ないというところが、ちょっと、少し歯がゆい所ではあるんですが、洋上風力を進めるにあたって、港の機能を活かして、工事を行ったり、風車という部材を組み立てたりしていくわけですね。それが、いわゆる基地港湾と言われる港の

位置付けがもしなければですね、なお一層その洋上風力事業が進む、前進するという認識を持っていますので、酒田港を有する酒田市としてはですね、そのことも含めて、洋上風力というのは非常に地域の活性化に資する大型のプロジェクトだと思っておりますので、是非、山形県、港湾管理者も山形県ですけども、山形県と一緒にですね、この地域の洋上風力発電の推進に向けて頑張っていきたいなとそういう思いでいるところであります。これは、遊佐町も同じです。

従いまして、先だっても庄内地域の重要事業を県とか国に要望する機会があるんですけども、その中で庄内地域としても、是非この洋上風力発電事業、それからそれに伴う酒田港の基地港湾の指定に向けて、県を挙げて取り組んで欲しい、それから国に対しては、そういう山形県の動きに対して是非バックアップをお願いしたいという要望をさせていただいた所でございます。

記者／県が主体になっているという部分でコメントしづらい部分もあるとは思いますが、やはり今、港という話が出てきて、建設の際、環境の部分でかなり配慮が必要な部分もあるのかなと思うのですが、その辺りはいかがでしょうか。

市長／例えば、漁業の関係の皆さんとかですね、自然環境の方々、そういったところはしっかりと手続きを飛ばすことなくですね、地域の皆さん、それから関係者の皆さんの理解を得ながら、進めていくべきものだろうなと思っておりますので、一定の丁寧な対応を取りながら、この事業は進めていくべき事業だと思います。

そこは、山形県とも連携をしつつ取り組んで参りたいなと思っております。決して、行政だけの思いでどんどん進めるだとか、事業者だけの思いでどんどん事業を推進するというのではなくて、地域住民の皆さん、漁業関係者の皆さんの理解の上で、進めていきたいなと思っております。

【酒田市×PayPay キャンペーンについて】

記者／PayPay のキャンペーンが、昨日で第二弾が終わったと思いますけども、確か一年前位に第一弾をやるといった話になったときに、市長の会見で、私が酒田のDXについてという事を伺ったと思うのですが、その時、コロナ禍においては、市長の重要な施策の一つである観光誘客もなかなか難しい中、コロナ後を見据えたようなDXだとか、あるいはそういった種まきだとか、そういったことに繋がるんじゃないかといった話もございましたけども、昨日 31 日最後ということで、街を歩いてみるとガソリンスタンドに行列が出来ていました。

市長／そうでしたね。

記者／また、鶴岡市ですとか、今日から庄内町もですけど、成功例というか先行事例としてほかの自治体にも随分影響を与えたようなんですけど、市長として第二弾が終わってみてですね、当初の狙いと改めて振り返ってみてどういう施策なのかという評価をお願いしたい。

市長／5 月分についても、3 月の補正予算で 5 億 250 万円の補正を組んでやった訳ですね、さてどの位利用されるかなという思いで、実はハラハラしながら、この予算で間に

合うか、なんとかギリギリこの予算でこなせたということを担当からは報告を受けておりますけども、いずれにしても1か月で5億近い還元額が出ていくというのはですね、相当経済波及効果としてはあったんだろうなど。

我々酒田としては、昨年10月から3か月やった中で、ある意味、地方自治体がやる経済政策としては、かなり有効な政策だと思ってですね、評価をしてたんですね。もう一回ということもあって、色々な制約はあったんですけど、一定の期間をおいて、5月にやらせていただきました。これも、かなりな経済波及効果が見込まれるということで、私としては、コロナ禍ではありましたけども、地元の業界にお金を落とすという意味では非常に有効に機能した政策だったなど、こんな評価をしています。

ただ、一方で、みんながやり始めるとですね、結局同じですよ、隣町で前後やったら、結局順番にやってるだけという話になると、経済効果というのはどうなんだろうなという思いも実は持っております、これが全て地域の経済波及効果に繋がるということにはならない、日本全国でこれをやられたら、どこでやっても同じだという話になりますよね。そういうことなので、取組みとしては非常に先見性のある取組みだったなと思いつつも、これからは、DXとして、そういうキャッシュレス決済ということに慣れ親しめたということでは一定の効果は見出したのかなと、経済政策としてはそんなにこれから効果が上がる政策として捉えられるか疑問かなと思ってますけども、ただ、このコロナ禍においてこの地域にお金を落とす仕掛けとしては、非常に有効に機能したということでは評価をさせていただいております。

これからは、またちょっとDXを活用した経済政策という意味では、また知恵を出して斬新なものを考えていかなきゃいけないのかなと。これがうまくいったからと、これからは未来永劫これでやるんだと、そんな単純なものじゃないなという理解をしています。